

平成25年度

第1回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成25年5月22日（水）

場所：鶴岡市役所 議会委員会室

平成25年度 第1回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成25年5月22日（水） 午後1時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 議会委員会室

○ 出席委員（五十音順）

稲泉眞彦、奥山春名、今野毅、今間智寛、齋藤春子、菅原衛、菅隆、竹田理英、
茅野進、早坂剛、本間仁一、三浦惇、山田登

○ 欠席委員（五十音順）

五十嵐吉右衛門、伊藤俊昭、後藤輝夫、竹内峰子、田村勇次、丸山絢子、若木敬一

○ 市側出席職員

地域振興課長 阿部真一、地域振興課主査 三浦裕美、地域振興課専門員 前田哲佳、
地域振興課主任 小野寺善紀、地域振興課主事 富樫智彦

○ 公開・非公開の別 公開

○ 傍聴者の人数 1名

1 開 会 （午後1時30分）

2 あいさつ

3 報 告

（1）平成25年度予算及び主な事業の概要について

（2）平成25年度鶴岡地域審議会の進め方

4 協 議

（1）各分科会協議テーマについて

ア. 分 科 会 （ワークショップ）

「地域コミュニティ分科会」

「産業経済分科会」

イ. 全 体 会

各分科会のまとめ報告 （議会委員会室）

5 その他

6 閉 会

1 開 会 (午後1時30分) 進行：三浦裕美地域振興課主査

2 あいさつ (早坂剛会長)

3 報 告 (議長：早坂剛会長)

(1) 平成25年度予算及び主な事業の概要について(説明：阿部真一地域振興課長)

(2) 平成25年度鶴岡地域審議会の進め方(説明：三浦裕美地域振興課主査)

○ 早坂剛会長 今年度の予算と、前年度を踏まえた上での今年度の地域審議会の進め方の話がありましたが、予算とか何かご質問ありましたらお願いします。(29:47)

○ 稲泉真彦委員 合併特例債は何年度まで有効になったのでしょうか。

○ 阿部真一地域振興課長 合併特例債は平成17年度に合併いたしましたので、当初平成27年度まででしたが、5年間延長になりましたので平成32年度までとなります。被災地の合併市は10年間、それから一般の合併した市は5年間延長になったということです。

○ 早坂剛会長 第三中学校もこの間に改築するという計画があったようですが、どうでしょうか。

○ 阿部真一地域振興課長 そのことについては分かりかねますが、合併特例債が5年間延長されたことで、一つ考えていきたいこととして、今年度ごみ焼却施設の調査、研究に取り組むということは把握しております。

○ 早坂剛会長 それから子育ての問題で、待機児童について鶴岡の場合は多いでしょうか。

○ 阿部真一地域振興課長 待機児童はいないと聞いています。

○ 早坂剛会長 待機児童がいないということは喜んでいいことだと思いますが、それだけ子どもさんの数が少ないということになるのかも知れません。

○ 阿部真一地域振興課長 三世代居住率が高いということで、家で保育をしてくれる方がいらっしゃるのかなど、いろいろな見方があるのかなと感じています。

○ 早坂剛会長 わかりました。それでは、これから分科会ということによろしいですか。ではよろしく願いいたします。

4 協 議

(1) 各分科会協議テーマについて

ア. 分 科 会 (ワークショップ)

「地域コミュニティ分科会」 (座長：山田登分科会長)

「産業経済分科会」 (座長：今野毅分科会長)

イ. 全 体 会

各分科会のまとめ報告 (議会委員会室)

○ 山田登分科会長 コミュニティ分科会の報告をします。今、地域社会は高齢者が大変増えているということで、高齢者世帯に対する見守り活動が話題になりました。一つは小堅地区での福祉員制度です。地域の中にいる一人暮らし高齢者の見守り活動の取り組みで、どこかの家がどんな状態になのかが分かるようなカードを調査、作成し、それに基づいて福祉員が見守り活動をするということです。これと同じようこととして、社会福祉協議会で福祉協力員という役割を担う方を、町内会のほうで推薦してやっております。私の町内の紹介ですが、昨年度から体調不良や高齢者一人暮らしの方々が、どんな状態なのか訪問をしながら、いざ何かあった時には、真っ先にその家に駆けつけるという役割の防災連絡員を町内会長名で任命しております。一年の中で何回かそういう方々が集まって、町内の中の高齢者や体調不良や体が不自由といった方々の状況について情報交換をするようになっておりますが、問題はプライバシーに関わることがあるので、なかなか取り扱い上難しい面もありますが、民生委員の方々からも協力していただいている状況です。これからもっともっと活発にしていく必要があるのではないかとということです。

それから、人口減少に歯止めを掛けるということで、婚活のことが話題になりました。三瀬での取り組みの紹介がありましたが、なかなか結婚までには至らないが、かなりの人が集まり盛大に行われているということです。結婚まで結びつくような活動を工夫しながら、今後も継続してやっていく必要があるのではないかとということです。また、人口減少にともない空き家、空き地が非常に増えていることから、空き地については家庭菜園のような畑として活用が出来ないかということと、空き家についても、現在、実態調査が進んでいる中で、優良な空き家をもっと積極的にPRしていく必要があり、そして利用していただくことで他から人を呼んでくる。人口を増やすという方策まで結びつける必要があるのではないかとということです。その時に民間に任せるだけでなく、信用面やブランド性を高めるという視点からも、地方公共団体のバックアップ体制を検討していただきたいという話になりました。

それから地域の活動は、普段からいろいろあり、役員会の中で決めながら進めていますが、地域の声が行事の中に盛り込まれるように、子どもから大人までの考えが十分活動の中に組み込まれていくように仕組んでいく必要があるのではないかとのご意見もございました。地域の皆さんを巻き込んで地域が活性化していくという、地域おこしに繋がるような活動内容を改善、工夫していくということで、具体的な実践例は2回目以降になるかと思えます。

○ 阿部真一地域振興課長 見回り活動の内容や人口減少に伴った対応、地域おこしに繋がるよう地域の声を大切にするといったお話でした。それでは今野分科会長さんお願いします。

○ **今野毅分科会長** 今回のコミュニティ分科会の話と、若干重複する部分もあるかも知れませんが報告します。配布された資料と早坂会長からも話がありましたが、将来的な人口減少ということは共通の認識でした。特に生産人口について資料から予測して、いずれはどんどん減っていき、この地域の活力は落ちていくであろうということから、分科会では定住化や交流人口の増大による活性化、あるいは推進していくかということをテーマに議論を始めたところです。いろんな角度からありましたが、一つはこの定住や移住に対する理解が、どの程度あるのかということで、東京事務所長であった阿部課長から、都会にもいろいろな団体があり、その中で東京で山形を応援したいという本県出身者の集いを企画したところ100人ぐらいが集まり、山形を応援したい方々が多いのだという話がありました。そういうことから、どのようにすれば定住化や交流に繋げることが出来るのかということで、我々はこの地域を売るといいますか、宣伝するためのプロモーションというものをしてこなかったのではないかという話になりました。今後我々は現状を踏まえた上で、移住・定住の相談の窓口といったものが整備されていない現状や、農業、商工業も含め様々な雇用の創造や拡大といったことで、各団体でも相談窓口をお互いに整備して、「シティプロモーション」という言葉があるそうですが、鶴岡を売り込む、宣伝していく、あるいは鶴岡から発信していくといったことで、先ほどの山形を応援したい人たちを呼び込むという、これが移住あるいは定住に繋がるのではないかということで、今日で全部は出ませんでしたので、今後、いろいろな角度から肉付けをしながらの議論を、プロモーションが出来るものを作っていく工程の確認をしたところです。いかに人口減少というものが、この先の鶴岡に大きく影響するかということをも最大のテーマとして、市長、あるいは市に提言できるようなプログラミングをしていきたいということです。これに関しては、子どもをいかに環境のいい条件、子どもの教育のための条件整備をしていくかということで、奥山委員からは著名な先生方の話を聞きながら、幼児教育も含め教育全般ですが、鶴岡は教育も含めて定住や仕事についても、様々な角度からプロモーションしていく必要があるということになりました。今後の議論にご期待いただきたいと思います。

○ **阿部真一地域振興課長** 各分科会長さんからご報告いただきましたが、お互いの分科会のお話を聞いて、伺ってみたいことやご意見がありましたらお願いします。

○ **山田登分科会長** 婚活について少し補足します。話し合いの中では地域ごとにいろいろ活動をするよりも、地域が複合してやることによって婚活が進むのではないかということ。それから同窓会や成人式といったような場面も婚活といった視点から取り組んでみたらどうか。その場合も高等学校の先生方の協力を得て、一つの高等学校の同窓会だけでなく、複数の高等学校の同窓会を組み合わせることで、いろいろ交流の範囲が広がって婚活が進むのではないかというご意見もございました。婚活については、工夫すればいろいろあるのではないかなと思います。豊富な話題で話し合いが出来たと思います。

○ **阿部真一地域振興課長** 同窓会を婚活の場にとすることは、新しい発想かと思います。担当としてはどう思いますか。

○ **前田哲佳地域振興課専門員** 婚活事業を担当しております。婚活のイベントはパーティ

一方式が一般的で、昨年度に鶴岡市内を会場に開催された婚活イベントが60件ほどあり、ここ2、3年で倍以上の状況です。イベントの内容も、山歩きやトレッキングという体験や、海があればクルージングと結びつけながら開催しています。女性の参加者が集まりにくいという現状もあり、女性の集め方が一つの課題です。自然と集まる場を活用して企画を考えるというのはいい視点ですので、参考にさせていただければと思います。

○ 齋藤春子委員 私は地域や同窓会などということに、限定しないほうがいいのかと思います。山でも海でも幅広く募集し気に入ればということだと思います。三瀬地域は海がありますので、海岸を使って募集して集まりました。参加する人の範囲をどの程度広げるかという問題はあると思いますが、間違いなく集まってきます。私は結婚しないのではなくて、よく勤務先に女性がいないので機会がないという方がいますが、環境さえつくれば、後は自分次第になるかもしれませんが、あまり堅苦しいものではなく、ざっくばらんにわいわい集まった中で、それをきっかけにしながらでもいいのかなと思います。三瀬の婚活イベントで一組成婚しています。

○ 阿部真一地域振興課長 婚活については、結果的に多く集まった少なかったということはあると思いますが、試行錯誤を重ねていいものになっていくのかなと思います。

○ 竹田理英委員 これまでの60回というイベントですが、集めるためのPRはどのようにしていますか。鶴岡市や庄内に限定していますか。それとも、東北、日本全国に向けて、情報発信をしているのでしょうか。

○ 前田哲佳地域振興課専門員 先ほどの60件ですが、これは県で山形結婚サポートセンターという団体を昨年度立ち上げ、そのホームページを通して告知されたイベントの数字です。それから、市が実施する婚活事業に賛同いただける企業や団体を募って、鶴岡婚活支援ネットワークというネットワーク化を図っております。三瀬自治会さんやJA青年部さんなど、様々な団体から登録いただいています。また市のホームページに婚活支援ネットワークのページがあり、そこからネットワークに登録している団体さんのイベントの周知や市の広報でも周知を図っています。ネットワークに登録している団体さんには、イベントがあれば窓口となる部署を通じて情報を直接お送りしています。

○ 竹田理英委員 インターネットだと全国から見られますが、広報紙は鶴岡市に限られます。今後、例えばインターネットであれば、他県から来るという事もあります。

○ 前田哲佳地域振興課専門員 市の婚活事業では、市民の方が優先される部分もあります。昨年度、市が実施した事業では、男性は市内の在住者とし女性の方は限定しませんでした。地域振興課の場合は、男性は鶴岡の方、女性は出来れば首都圏の方をいうことで、東京事務所等から協力も得て、東京23区の掲示板や移住サイトといった様々なツールを使ってPRし、交通費は自費ですが、15名中東京や埼玉などから5名の方の参加がありました。

○ 今野毅分科会長 県外からの参加した人達の反応はどのようなものでしたか。

○ **前田哲佳地域振興課専門員** 旅行を兼ねてという方、また移住を含めて、滞在期間中に就職の可能性や、生活していく手がかりなどがあるかという視点で参加された方もいました。

○ **今野産業経済分科会長** ある意味、チャンスや縁があればと来るということですね。

○ **齋藤春子委員** 私の地域で花見をしますが、今まで参加しなかった方が出てきたということがありました。私は婚活イベントに何となく行ってみようかなということをしっかけて、今まであまり地域と関わりのなかった人が、地域の行事にも出てくるようになるのかなと思いますから、婚活などのイベントなどを重ねることで地域にも出てくるようになります。婚活は1回で上手くいけばそれはそれでいいのですが、あちらこちらですることでもチャンスだとこの頃思いましたので、引き出す工夫をしていった方がいいのではないかと感じました。

○ **阿部真一地域振興課長** 婚活については、昨年度に引き続き市でも力を入れてやっていきたいと思います。それから庄内町、三川町も定住自立圏の関係で鶴岡市が中心地になって協力してやっていくようになりますので、場面は増えていくのかなと感じております。

○ **稲泉真彦委員** 両分科会とも人口減少で、コミュニティでは婚活のことが主に話し合われ、産業では地域の活力や雇用などのところで話し合われたのかなと思いますが、せっかくの機会ですので、前東京事務所長であった課長に企業誘致の関係でお尋ねします。かつては企業を呼ぶといった力が非常にある都市であったと思います。そのためには教育の力や地域性もあったし、ただこのところ私個人としては少しその力が弱くなってきたのかなと感じています。これは全国的な傾向かも知れませんが、早坂会長がおっしゃった日浴道の問題、飛行場、新幹線といった面で非常に弱くなってきたと。資料では飛行機の利用者数に関しては着実に増えているようなデータだったのかなと思いますが、そうした時に東京事務所として企業を呼ぶことについて、市民としても、それから次の両方の分科会、特に産業分科会で議論されるのかなと大いに期待していますので、教えていただけませんか。

○ **阿部真一地域振興課長** 企業誘致ですが、年1回首都圏から鶴岡に工場進出されている企業さんから忌憚のないご意見をいただく場があり、いろいろなご意見をいただいております。今、稲泉委員が言われたように、最近は企業誘致はないのですが、逆に撤退する企業さんが意外と少ないというのが鶴岡にとっては良かったのかなと思います。企業誘致の難しさは、国内状況だけでなく、人件費の関係から国外に出るといった外部要因もありますから、山形県当局の方々と一緒に企業誘致で回りますが、なかなか成果として結びつかず、役割が果たせなかったと思います。また、企業進出されているところの社長さんや重責の方から、鶴岡の従業員のほうはどの方も非常にまじめだと言われます。引っ込み思案のところはあるように言われますが、かなり質の高い従業員の方を雇い入れることができたということは、鶴岡は非常に高い評価を受けているのかなと思います。

それから高速交通は、私も東京と鶴岡を何往復もしましたが、今ひとつ十分ではないです。飛行機の場合は朝6時55分で使いにくい。鉄道も新潟から鶴岡への乗り換え時間が8分くらいで同一ホームではない。冬は羽越本線は止まってしまう。山形新幹線も止まってしまう。速く安く安心といった意味では、企業さんの意見でアクセスが容易でないところはある

るようです。一方ここ2年間ほど、鶴岡の食文化について首都圏のほうでPRしています。前から鶴岡の食べ物は美味しいとの評判でした。つや姫がいい評価です。食文化を進める中で、食文化と山岳宗教ということで、鶴岡は少しずつでも浸透してきているのかなと思います。企業誘致はなかなか進みませんが、自分で仕事をつくってでも鶴岡に定住したいという方が、少しずつですが増えているのかなという印象を受けています。先ほど今野分科会長からありましたが、定住や移住の窓口を設けてのシティプロモーションは、是非していかなければならない仕事の一つかなと思ったところです。いろいろ分科会の中では意見が出されたと思いますが、是非聞いてみたいことがあればお願いします。

○ **竹田理英委員** この間、東京に行った時にデパートでつや姫が大々的に売られていて、こちらにいる時よりもつや姫が売れているというか、PRが上手だなと思いましたが、鶴岡のつや姫といいますか、その辺りを是非お聞きしたいのですが。

○ **今野毅分科会長** 多分つや姫のセールスについては、吉村知事を筆頭に県庁と全農山形の県本部で主にやっていると認識しています。竹田委員が見たつや姫の販売は、例えばどこかの農協やつや姫レディーとか、誰か人がいてのキャンペーンでしたか。

○ **竹田理英委員** 誰もいませんでした。デパートの売り場の一番最前列につや姫ののぼり旗がありました。県内の私とすれば、そういうものを見ると嬉しいわけです。

○ **今野毅分科会長** 営業関係は先ほど申しましたように、県のほうが中心となっていることをご認識いただければと思います。それから鶴岡産と特定した売り方はしていないと思います。ただつや姫については、知事や阿川佐和子さんのコマーシャル効果が大きいし、品質的にも評判です。この前も米を専門に扱う雑誌社が来ましたが、じっくりと戦略を練っていけば、新潟のコシヒカリに負けないという話しでした。ただ量がまだまだ少ないです。三浦委員からも在庫があるそうだとも言われましたが、年間を通してつや姫を売る機会が今年初めてなので、在庫をまだ持ち合わせてはいません。前期の産業経済分科会で、出張や仕事でどこかに行く時に鶴岡の観光パンフレットを持っていき、一人ひとりが営業マンになって鶴岡を売り込もうという話しがありました。お米の話がでましたので、観光も含めてですが、庄内の米、山形の米は、地域の農業でもありますが、観光資源の一つだと思います。皆さんからもつや姫をご親戚なり様々な形で、営業マンになっていただければと思います。

○ **稲泉真彦委員** 去年の暮れに、名古屋に行ったついでに50年ぶりでお伊勢参りをしたあとで、広い門前町を端から端まで、かなり時間をかけてゆっくりと楽しみました。門前町の中にたくさんのお店がある中で、庄内米と書いてあるのぼり旗が立っていて、大阪にも庄内という地名があるので、迷いましたが庄内米と書いてあるがどこの米かと聞きましたら山形県ですという答えでした。つや姫とか銘柄を聞いたのですが分かりませんでした。お米ののぼり旗は庄内米しかなく、そして美味しいということで、おにぎりで売っているのです。おにぎりのメニューはいろいろあり私も食べましたが、美味しいのは間違いないから売っているのだろうと思いました。帰ってきてから、宣伝などはどうしているのかなと思いました。

○ 三浦惇委員 我々も高齢化時代で大変だと認識していますが、配布された資料にも大変だとありました。先ほどの課長の説明で、コミセンに対して職員の派遣の話がありました。コミュニティの活性化に向けて、どのような対応で市が向かっていくのかという位置付けや責任と言いますか、当然連携を取りながらということになるでしょうが、業務をしながらになるのかなども含めて、状況について教えてください。

○ 阿部真一地域振興課長 今年度から地区指定職員制度が導入されます。温海庁舎で職員が各集落のほうに班編成をして、話し合いの場に参加するということをしており、職員が集落の地域課題をよく知っているということで、全市に拡大しようということです。管理職の職員を班長にして、各地区等の規模に応じた班編成をし、いろいろな話を聞かせていただき、一緒に課題解決をしていくということで、今年の7月くらいから始める予定です。集落からいただいた課題を調整しながら、いろいろ試行錯誤を重ねながら進めていくことになりかと思えます。

5 その他 なし

6 閉会 (午後4時37分) (阿部真一地域振興課長)